

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	◎	都市型ホテル（経営者）	・宿泊に関しては前年比2倍の売上で、今後も同水準での予約がある。
	◎	旅行代理店（経営者）	・2～3か月先は繁忙期に入り販売量が増えるため、景気は上向く。
(北関東)	○	コンビニ（エリア担当）	・値上げの影響がまだしばらくは続き、売上はやや良くなる。
	○	コンビニ（店長）	・涼しさの到来とともに、来客数は少し良くなると考えている。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・現時点で、先の団体貸切りの宴会や少人数の食事会、飲み会等の問合せ、予約が入ってきている。
	○	一般レストラン（経営者）	・秋の行楽シーズンの天候が安定し、残暑も厳しくなければ期待できる。
	○	都市型ホテル（支配人）	・秋はイベントが多く予約状況から判断しても、やや良くなる。
	○	タクシー（経営者）	・昼も夜も動きが良くなってきているため、この先も良くなる。
	○	ゴルフ場（従業員）	・秋のトップシーズンに入るが、前年の予約状況と比べて、土日は伸びているものの平日の予約は直近化が顕著になっている。
	□	商店街（代表者）	・客の購買意欲は上向いていない上に、生活防衛意識が強く、一段と消費マインドは冷え込むと予想される。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・米は安くなっているが、その他の商材は値上がりしたままなので、客がチラシを片手に見比べて買物している。このような状態が続いているため、期待は持てない。
	□	百貨店（店長）	・富裕層の売上は堅調に推移している一方で、中間層の売上は前年を下回る状況が続いている。物価上昇による消費者の節約志向は続いており、今後も高額品や衣料品等の需要拡大は限定的だと考えられるため、今後2～3か月の景気は今月と大きく変わらず横ばいで推移する。
	□	スーパー（経営企画）	・景気が上下する要素は見当たらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・特段、良くなる要素は見当たらない。
	□	家電量販店（店員）	・現状から下がるような要因は見当たらない。
	□	家電量販店（企画担当）	・下期にかけてエアコンが堅調に推移する一方、パソコンは、前年の特需による反動減の影響が大きくなる。
	□	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーの生産台数は、輸出も含めてほぼ順調に推移している。また、売上は分からないが、近隣の大規模小売店の駐車場は客の車でかなり混み合っている。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・短期的には、物価高による節約志向や買上点数の減少が続く。可処分所得の減少により、余暇に回る金額も減少し、閉塞感のある個人消費は変わらない。
	□	その他専門店（総務担当）	・先の受注は見込めない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・インバウンドを見込めるわけでもなく、円相場や気候変動をみる限り、好転する要素は乏しい。上昇し続ける物価も要因の1つである。
	□	一般レストラン（経営者）	・涼しくなり、人が動く時期ではあるものの、値上げ商材もどんどん増え、節約志向は変わらない。
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・主力の給食部門の運営は、人に依存するウエイトが大きい。人員確保が進まない一方で、働き方改革や社会保険加入等に対する社員の考え方を組み入れた人員体制やシフト組みが必要となっている。秋の最低賃金の引上げで人件費は上がるため、収支確保に向けた取組が一段と求められている。
	□	観光型ホテル（経営者）	・変わらないと回答したが、分からないというのが正直なところである。旅行消費マインドの再分析とリサーチが必要だと実感している。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、飲食、宴会共に前年比107%ほどで推移している。近隣のスポーツイベントやMICE案件等で、宿泊と宴会場を両方利用するケースもあり、1年前と比べて人流が回復していると実感できる。一方で、原材料価格は高止まりしており、価格転嫁を検討せざるを得ない状況で、競合先の動向を注視している。

企業	□	旅行代理店（所長）	・今年は台風の発生が多く、台風の影響を受けると紅葉は余り色づきが良くないとのことなので、懸念される。
	□	旅行代理店（従業員）	・燃油サーチャージ等を含め、動向が気になるところである。
	□	旅行代理店（営業担当）	・来客数が伸びていない。ボーナスの状況にもよるが静観したい。
	□	タクシー運転手	・地方では、今後も景気が良くならない。タクシーに関しては利用客が増えそうにない。
	□	通信会社（社員）	・今後2～3か月先は変わらない。
	□	通信会社（営業担当）	・世界情勢の不安定さは、いまだ油断できない状況が続いているため、消費者が身構える状況は変わらない。
	□	通信会社（総務担当）	・人気機種が数機種モデルチェンジされる予定である。ただし、大幅に売価が上がるようならば、例年並みの販売は見込めない。
	□	テーマパーク（職員）	・前々年並みに戻りつつあるが、依然として物価高などが影響し、レジャー費を劣後とする状況が見受けられる。
	□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・依頼や見積提出までは進むものの、建築コストの高止まりで、相変わらず受注にはなかなか結び付かないケースが多い。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・前月は令和8年熊本地震があり、今月も各地を豪雨等の災害が襲った。国内で大きな災害が起きると、旅行のような娯楽を控える傾向が出るため、当社の従事する観光業の景気は、今後はやや悪くなる。この傾向は紅葉観光シーズンも継続するのではないかと、地元の個人商店主の多くから聞いている。一方で、外資や国内資本を問わず、高価格帯のホテルなどは堅調に推移している。観光面でも格差の広がりを実感している。
	▲	スーパー（総務担当）	・来年からの食品の消費税減税があり、年末年始辺りからは買い控えも起こりそうである。物価も下がらず、景気が良くなる見込みはない。
	▲	スーパー（商品部担当）	・良くなる理由が見当たらない。値上げ傾向はいまだに続き、全てを商材単価には反映できず、利益が圧迫されている。また、最近ではゲリラ豪雨の影響も大きい。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・この先、大型イベントや人流の増加につながる要因が少なくなるため、お盆期間やイベント開催時と比較すると、来客数や購買動向は落ち着くことが予想される。景気は現状維持かやや悪化していく可能性がある。
	▲	家電量販店（営業担当）	・金利上昇で利益が圧迫される。資材価格の高騰も止まらないため、薄利多売で乗り切る対策を実施するしかない。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢による物価高の影響が懸念される。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・令和8年熊本地震による部品供給網の寸断と工場稼働停止が響き、一部の車両や部品の納期が大幅に遅延しており、販売実績に大きな打撃を与えている。
	▲	ゴルフ練習場（経営者）	・販売価格は今後も上がり、消費者が離れていくのではないかと心配である。
	▲	美容室（経営者）	・今月末で地元百貨店が閉店する。百貨店を目当てに来ていた近隣の買物客が減少することは確実である。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・材料価格の高騰が止まらず、全体的な物価の上昇で物件の購入がしにくくなっている。これから顕著に影響が出てくる兆候がある。
	×	乗用車販売店（経営者）	・国内や米国政権の不安定さで悪くなる。
	×	通信会社（経営者）	・明らかに物が売れなくなってきた。このまま円安、原油価格高騰が続くと、かなり厳しい。
	×	通信会社（局長）	・中東情勢の改善はみられず、今後の見通しも立たない不安定な状況で、物価上昇も収まらず、今後の生活に対する不安が大きくなっている。利上げも進みそうで、投資家には良いかもしれないが、住宅ローン等のローンを抱えている一般消費者にとっては、更に苦しい状況となる。
	×	美容室（経営者）	・このところ株価などから景気そのものは悪くないといわれがちであるが、実際の一般消費者は生活が苦しいという声が大半で、ギャップがある。倒産、破産が増えている実感もあり、小規模店主としては不安である。
企業	◎	—	—

動向 関連 (北関東)	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・暑さが収まってくれば、品物は動くようになる。実際に涼しい日には動きがあるので、これから秋に向かって期待している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・半導体製造関連のロボットや自動車向けの仕事に増産計画があり、売上は増える見込みである。
	□	化学工業（管理担当）	・3か月後の受注量は現時点と変わらないが、その後の受注は低調である。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・いろいろな物の値上がりに苦慮しており、対策を考えている。
	□	金属製品製造業（経営者）	・取引先からの受注量は変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・当社の受注先は、上場企業が10社、中堅企業20社、零細企業20社と個人客である。全て半導体関係ではない業種で、積極的な設備投資は行われておらず、様子見の雰囲気が漂っている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・現在の受注量とほぼ変わらない。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・お盆に続き、9月も大型連休があるため、取引先の受注量等が回復しない。余り良くない。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況が依然続いているため、変わらない。
	□	輸送業（営業担当）	・2027年に省エネ基準が改定される影響により、エアコン等はまだ物量が増える予定である。白物家電、冷蔵庫、冷凍庫等、秋物インテリア、じゅうたんやカーテン等も前年並みの物量を確保予定である。ただし、中東情勢は落ち着いておらず、燃料価格の高騰、コスト上昇の状況もあり、利益確保は難しそうである。
	□	経営コンサルタント	・中小企業の生産活動や消費者の消費行動も現状並みで推移するとみている。
	□	司法書士	・日常の仕事は可もなく不可もなく、良いことが多いということもないし、悪すぎるということもない。変わらないままずっと続いている。
	□	社会保険労務士	・最低賃金引上げ額が決まったが、以前は最低賃金に抵触していなかった企業も引掛かり始めるため、これまでより企業に与える影響は大きい。
	▲	食料品製造業（経営者）	・更なる物価上昇が控えており、若干収入が増えたものの物価上昇には追い付かず、消費者の生活は一段と厳しくなることが予想される。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今のところ、主要取引先の生産は計画どおりに進んでいるものの、中東情勢や令和8年熊本地震の影響等が、これからの生産にどう影響するか非常に不安である。
	▲	建設業（総務担当）	・発注量が足りておらず、発注のペースも遅い。発注見通しを見ても、余り改善するとは考えられない。
	▲	金融業（営業担当）	・現状、資材等が入らないことはないが、中東情勢の長期化により、入手が難しくなるのではないかと心配している取引先が多い。
	×	不動産業（管理担当）	・テナント先の部署統合が10月から本格的に始まり、賃貸面積縮小か退去を前提としているため、順次、清掃等の業務が減っていく予定である。また、最近では空室の内見も減ってきている。管理物件の稼働率が全く上がらないなか、現状維持で何とか長く続けてきたが、減少へ向かうため、賃貸収入と管理費の減少が見込まれる。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	・石油関連の影響が多少出てくるかもしれないが、ガソリン価格もほぼ安定している。住宅関連は、夏休み前から工事等が入ったのか、結構伸びているが、材料費が調達できるかどうか心配なところである。自動車関連もこれから動きが出てくるようで、工場関係にやや活発さがある。米価が安くなっている点が、消費者には良い影響である。
	○	人材派遣会社（管理担当）	・買換えによるスマートフォンの下取り検品業務が増えるため、やや良くなる。
	□	人材派遣会社（社員）	・元々、7～8月は当地に観光客の入込が多い時期だが、9月以降も数か月先までは、前年比でインバウンドが増えて明るい状況になるとみている。ただし、物価高がこのまま続き、土産物店等への納品などに買い控えが発生してくるようであれば多少は心配である。

	☐	人材派遣会社（社員）	・職種による需給バランスの偏りが解消されていない。事務職希望は多いものの、専門性のある職種の人材不足は変わらない。
	☐	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月と横ばいで推移する。
	☐	学校〔専門学校〕（副校長）	・特段大きな変化は予想できず、景気動向の変化も影響はない。
	▲	*	*
	×	—	—